



かえでゆうびん 9月号

2025年9月1日

社会福祉法人 清松学園

幼保連携型認定こども園

かえで保育園

園長 引地 美津代

暑すぎる夏が落ち着く気配もなく、9月に入りました。子どもたちの大好きな水遊びはまだまだ続けられそうですが、皆で育てたトマトやマスカットは悲鳴をあげ、収穫を迎えられるか心配です。そんな中でも6月に植えたお米はなんとか稲穂がつき、お米になる日も近いと期待しています。毎年、異常気象で今年も昨年に増しての大雨による被害があちらこちらで起こり、これから世界中で様々な自然の事象に向き合わないといけなくなると未来を担う子どもたちの生活が心配になります。そんな中、最近の研修で「未来の子たちがどう進んでいくべきか・こどもの未来を決める大人ができる環境づくり」の内容で改めて教育環境を考える機会となりました。

現実空間と仮想空間が混在している現世界では「心の成長」に今までの育ちと随分変化があること、今後どのように人・モノと関わりを深めるかが重要になる。様々な情報を取捨選択しながら今の世界でどう生きていくかを導いていかないと大変な世界になってしまう。仮想空間が進んできた現在は、もう5年後の世界が予想できない世界（戦争が起こる）になってしまっている現状に少し不安にもなりました。『心の成長』に大切な現実空間と、AIの世界の導入とのせめぎ合いがまさに始まっています。まさに8月に皆様にもご協力いただいたICTのツールの入れ替えに携わりましたが、メーカーに問い合わせるのも電話ではなくメールで送信・返信のやり取り。様々な質問もすべて活字でのやり取りにPCの向こうにいるはずの「人の存在」が薄く、どうしても電話で思いを伝え、会話の中で理解する方法の方がほっとして進められました。逆に若い職員はメールでの射た質問をしたり、自分で解決したり、瞬時に次のプログラムに移せ、私が費やした時間の半分以上で作業が整えられました。確かに事務業務では合理的に進められ短時間で行えることは大変メリットがありますが、「人」として育っていく「こども」の時期にはできるだけ創造力や感性を育てるためには「やってみる・感じる・何度も挑戦し自分でみつける」など実体験で人との関わりで力をつけていってほしいと思います。幼少期には「人の存在」を感じ、柔らかい生の声を聞き、肌と肌の触れ合いの心地よさを感じながら他者の心の動きも感じて過ごしてほしいです。講師の先生が最後に話された、子どもの傍にはAIではなくどら焼きを食べる（内臓感覚があること＝心がある）「どらえもん」であってほしいという表現に大きくうなづけました。

園長 引地 美津代

7月下旬～8月にかけて、中学生・高校生・大学生の卒園生に園で過ごしてもらう『おかえり DAY』を行いました。小学生の6年間は園に一堂に集まり『同園会』を行っています。中学生以上ともなると、部活や勉強、友だちとの予定など、みんな忙しそうにしています。日程を調節して夏休みにあそびに来てくれ、学校が分かれた友だちとの再会や、保育者との久しぶりの会話も楽しんでいるようでした。「あのな、学校で…」と悩んでいることをぼろっと話してくれたり、これから進む道について話したり、今夢中になっていることを嬉しそうに教えてくれる子もいます。あの頃よりも体も心も大きくなった皆を見ていると、かえで保育園を巣立ってからそれぞれの場所で積み重ねてきた時間を感じました。卒園してから十数年経っている子どもたちが園に帰ってきてくれることはもちろんのこと、健康でそれぞれの道を歩んでくれていることが本当に嬉しいです。「何かここ、落ち着くんだよね」と呟ってくれた子や、なかには新幹線に乗ってはるばる帰ってきてくれる子もいました。「ただいま」と言える場所があると安心して外の世界を広げていけるように、かえで保育園で過ごしている子どもたちにとっても、保育園の中にほっと出来る場所がそれぞれあるのだと思います。

さて、暑い夏の中でも楽しみの一つであるお祭り、かえで保育園でもだいちさんがお店屋さんになり、皆を招待してくれました。8月下旬に開催した2回目のお祭りでは、以前お店インタビューでお世話になった『スターバックス』の手作りエプロンをつけて大張り切りのだいちさんでした。大人を模倣する、友だちを真似ることからあそびのバリエーションを膨らませていく子どもたちにとって、自分の知らない世界を“深く知る”ことは、学ぶことそのものだと感じます。かえで保育園の中だけでなく、地域の方々とのご縁も大切にしながら、温かい“人とのふれあい”を重ねて欲しいと思います。

主幹保育教諭 K

めばえ

日中はまだまだ暑い日が続いていますが、夕方になると少し風が通り、過ごしやすくなってきました。8月は熱中症対策を行い、園庭ではなくテラスで水・氷・泡あそび、ボディペイントなど感触あそびを全身で楽しみました。室内では保育者の歌に合わせて身体を揺らしたり、楽器を鳴らしたり、手拍子したりと子どもそれぞれが音を楽しみ、表現しています。

最近ではエプロンや服の着脱を保育者と一緒に行う姿勢やスプーンに挑戦する姿など、生活面でもやってみたいこと、できる事がたくさん増えてきました。できた時の嬉しそうな表情や、もう1回と挑戦しようとしたり、子ども達の成長には毎日驚くことばかりです。保護者の方へ園での様子を伝える時や家庭での様子を聞くことで共に成長を感じることができ嬉しく思います。

今月より新しい友だちが2名増え、9名での生活が始まります。保育者と1対1でゆったり過ごす時間も大切にしながら、子ども同士が関わる姿も見守って保育を進めていきます。



保育者の真似をして
こちょこちょ



絵本が始まると自ら近くに来て、
絵本をじーっと見えています。



ふたば

酷暑が続く園庭での遊びが、制限はありましたが日陰ややテラスを活用しながら、短い時間で子どもたちは思いっきり夏遊びを楽しんでいます。7月は全身で水を感じる子どもがほとんどでしたが、8月はレモンせっけんを使って泡を立て、泡の感触を楽しんだり窓ガラスに泡で絵をかいてみたり、氷の冷たさやだんだん解けて形が変わっていく様子に気づいたり…水の利用した遊びに興味広がっています。始めは濡れることに抵抗があったお子様も今では自ら水や氷、泡遊びの場所に向かって走り出してしまうほど大好きになりました。まだまだ暑い日が続きますが、夏ならではの遊びを全力で楽しみます。さて、先月のかえでゆうびんにも掲載していたあおむしは、最近黒色から緑色になり、子ども達も「みどり！」と喜んでいます。あおむしが食べる葉っぱを飼育ケースに入れたり、成長する様子をじっと観察しながら子ども達と一緒に大きくなっています。あおむしの成長を見届けると共に、生き物と触れ合う中で、あと惜しいと思う気持ちや感じるものがあると嬉しいです。



おふろみたいだね



あわあわだー！



どのはっぱが
おいしいかなあ？



いっぱいたべてね

つぼみ

氷つめたい！



園庭では氷や泡、泥の感触を楽しんだり、全身水に濡れて思いきり遊んだりして過ごしています。氷遊びでは、氷が溶けた後は色水になり、コップやペットボトルに入れ、ジュースに見立てて遊ぶ姿が見られます。また、色々な色を混ぜてみると「紫になった」と気づき、色の変化に興味津々。じゃぶじゃぶ池では、幼児さんの姿を見て水を汲むことに挑戦。「いっぱい水出たよ」と嬉しそうに友だちや保育者に伝えようとする姿が見られました。

室内では昆虫カルタで遊ぶ姿が見られます。保育者の声を聴いて、「せみさん捕まえた」と言いながらカルタを取ろうとする姿が微笑ましいです。簡単なルールのある遊びを通して、友だちとの関わりも楽しんでいます。カルタの種類を増やし、メモリーカードなどルールのある遊びをしていきたいと考えています。

氷の中にジュースができた

小さい色付き氷や大きい風船の氷

お水出た！

むらさきになったよ

保育者の声を聴いて、

セミさん捕まえた！

いぶき

せみいた！！

暑さの中でも元気いっぱい遊んだ子どもたち。ひかり組やだいち組のお兄さんやお姉さんたちと一緒に「むしあみと、むしかごかしてください」と虫取りに夢中です。優しいお兄さんやお姉さんたちにコツを教えてもらいながら捕まえた時のキラキラした笑顔が、とてもかわいらしいです。少しずつ生活以外の場面でも異年齢での関わりが増えてきています。優しくしてもらった嬉しい気持ち覚は、きっと年下の友だちとの関りにも繋がっていくことと思います。毎日忘れずに水をあげて大切に育てていたパプリカで、クッキングをすることができました。野菜が苦手な子も自分で育てたパプリカは食べる事ができました。皆で一緒に食べたことも嬉しかったようで笑顔で顔を見合わせながら食べていました。栽培やクッキングの経験が“つくる楽しさ”“食べる喜び”となり、苦手なものや初めての食材への関心にも繋がってくれると嬉しく思います。

パプリカとれたよ

かめさんいるね

どこにいるかな？

絵本にもパプリカあったよ！

ひかり

7月には歌「そうだったらいいのにな」に合わせて歌詞を考え、ロボットカミイの歌を作りました。歌を歌っていく中で、自身でも「そうだったらいいのにな」の歌詞を書いたり、カミイのイラストを描いたり、そうだったらいいのにな…と願いを込めながら、カミイとしてみたいことを手紙に書くなど歌を通して、お話の世界が深まっていました。

ある日、Tくんが「カミイのえほんをつくりたい」と話し、絵本作りが始まりました。絵本には作者であるTくんの名前と物語の作者、ふるた はるひさんの名前を書き、ロボットカミイの物語を思い返しながら、素敵な絵本が完成しました。完成した絵本をひかりタイムで読んでみると、みんな目を輝かせ、「わたしたちもつくってみたい」とみんなで作ってみることに。それぞれが好きな描写や場面を描きながら“自分だけのロボットカミイの本”を作り始めています。



ぼくたちもつくりたいな



みんなでつくってみよう



よんでみて

だいち

最近のひみつの時間では、春から続けている毎日のお世話当番について子どもたちと話し合う機会がありました。どうしてカブトムシの土に霧吹きをしているか、どの方法でランチルームを綺麗にしてるか子どもたちで確認し合う中で「そうなんだ!」という子と「あ〜ちょっと知らなかったな…」と普段は「知ってる」と話す場面も、少し振り返ったり考えることで、発見する機会となりました。普段子どもたちが園で過ごす中でも、子ども同士での少しの気持ちがずれが見えることがあります。そんな時に「〇〇してもいいかもね」「〇〇してみよう」と子ども達でお互いの気持ちを考えようとする時間があります。気心知れた友だちに話していいのか、話ずらいなと感じることもまずは、話してみること。自分が話したかった気持ちを知ったり、相手の気持ちに気付く機会になるよう子どもたちで話し合う時間を大切にしていきたいです。第2回夏祭り、商店街づくり、だいち組でのおでかけ計画も“みんなで”の仲間が意識できるような9月を過ごしていきたいです。



「“みんなで”ってどんなこと？」
思いついたことを話してみました。



絵本『マンホールからこんにちは』
に出てくる世界を積み木や絵で表現
しています。



9月も暑さは続くようですが、夜になるとほんの少し涼しい風が吹くようになった気がします。

8月は暑すぎたので蚊にさされる心配もほとんどなかったのですが、少しばかり気温が下るだけではまだまだ蚊が発生し、園内の虫除け対策がまだしばらく続くと思うと早く風の冷たくなる秋になってほしいと思うばかりです。

先日の昼食時にだいちぐみの子どもたちに塩むすびを一つずつ作りました。一人のお子さまが次の日にも「また作って欲しい」とリクエストがあり、「おいしかった？」と聞くと「ぼくのお兄ちゃんに持って帰ってあげたい」と…帰宅後、兄に私が作ったおにぎりを食べたことを話すと、卒園児の兄は「先生の作ったおにぎりがおいしい」と言ってくれたそうです。次の日、中学生になったら「おかえりデー」に来てねとメッセージを託しました。もうしばらく先のことになりますがおにぎりを食べてもらえることを楽しみに待ってます。

おにぎりの作り方、適量のご飯を手にとったら、「お・に・ぎ・り」と4回ぐらい優しく握るぐらいがポイントです。時間がたってもふんわりしたご飯のままです。

主幹保育教諭 F

～おうちでクッキング～

今回は、水ようかんを紹介します。

和菓子を食べる機会が少ないと思いますが、水ようかんは食べやすいようでよく食べています。まだまだ暑い日が続きますので、材料も少なく簡単に作れる水ようかんを作ってみませんか。

○材料

- ・こしあん 500 g
- ・砂糖 30 g
- ・水 400 c c
- ・粉寒天 4 g

○作り方

- ① 水に粉寒天を溶かし火にかけ沸騰させ、1 分程煮立たせる。
- ② 砂糖を加え溶かし、こしあんを入れ混ぜ合わせる。
- ③ 型に流し冷やし固める。



行事予定

9日(火) 子育て支援 音とあそぼう
12日(金) だいち組園外保育 下水道科学館
職員園内研修(日割り延長は不可)
26日(金) 誕生会
29日(月) 月例健診
30日(火) 西宮市監査

絵画 10・24日(水)

体操 4・11・18・25日(木)

保護者メッセージ

ひかりになってどんどんお姉さん感が増してきた娘、息子はつぼみになってやりたいこと、できることが増えて、朝は行きたくない〜と泣いてても、いつも楽しそうに帰ってきています。お友だちだけでなく、先生とのやり取りもこんなことしたよって嬉しそうにお話ししてくれることが、帰ってからの親の楽しみになっています。

つぼみ・ひかり組 やすひろさん

いつも、今日保育園??と確認して「保育園だよー!」だと伝えると、「やったー!」と喜ぶ娘。最近では、〇〇ちゃんおやすみやった…しんどいかな?お熱かな?大丈夫かな?と心配する一面も。言葉や動きだけでなく、心も成長しているんだなぁと感じています。

いぶき組 ともみさん

つぼみ組になり、マイ紅白帽をかぶる事と体操服を着ての体操が楽しみで仕方のない息子。前日から「たいそう!かえでほいくえんの服!」とウキウキしています。そして、一度うっかりマイ紅白帽を家に忘れたことがあったのですが、次の日からは「帽子忘れないでね」と直々の確認が入るようになったのでした。

つぼみ組 まいさん

10月の予定

10月5日(土)

きっとできる!だいぼうけんの日
(めばえ〜ひかり組は家庭保育に協力お願いします)

10月後半(芋の成長で決まります)

芋ほり遠足(ひかり・だいち)

10月中旬 めばえ懇談会

10月15日 人形劇

野菜の栽培に興味がある娘は、帰省の度に祖父母と畑仕事を乐みます。園のみんなで育てた野菜たち、「みんなで育てて食べたから美味しかった!」と、栽培・収穫・食べるまでの過程で様々な喜びを感じている様子です。「将来の夢は、農家の人!」さて。次は何を育てようか♪膨らみ続ける夢のサポートができればと思います。

だいち組 ちえみさん

入園児はまだ赤ちゃんのようだった息子も、今では園の生活にすっかり慣れました。泣いて登園した日々を思い返すと感慨深いです。息子の成長を共に喜んでくださる先生方に心から感謝しています。

めばえ組 しいなさん

園で習った色んな歌を聞かせてくれます。所々自分でオリジナルの歌詞を作ったり、同じところを繰り返したりしてよく歌っています。それを見ているだけで保育園での生活が楽しいんだなぁと感じています。

いぶき組 りょうすけさん

家ではよく喋るお調子者でちゃっかり者の末っ子ですが、ひかりになり着替えたり自分で髪を括ったり、朝の用意を自分で張り切ってしてくれるようになり助かっています。お迎えに行くと園で作った作品を手自信満々で沢山話をしてくれます。家でもトイレットペーパーの芯や空箱などを捨てようとすると「いるー!」とよってきて何やら制作します。兄も工作大好きなので、家の中は二人の楽しい作品で日々溢れかえっています。

ひかり組 のぶこさん